

令和4年度からの共同利用・共同研究拠点の
新規認定拠点の評価結果(国立大学)

令和3年10月29日

共同利用・ 共同研究拠点名	人の活力・健康を増進するヒューマン・ハイ・パフォーマンス先端 研究拠点
大学等名 (研究施設名)	筑波大学(ヒューマン・ハイ・パフォーマンス先端研究センター)
評価コメント	<p>アスリートのみならず一般健常人から慢性期有疾患者までを幅広く対象とした次世代ヒューマン・パフォーマンス科学の創出を目指した特色ある研究施設であり、超高齢化社会を見据えた社会的な必要性が高く、特色ある施設・設備を生かした共同利用・共同研究体制が整備されているとともに、蓄積してきた先端スポーツ科学研究における実績を生かして共同利用・共同研究活動を推進しようとしていることは高く評価できる。</p> <p>今後、社会実装機能の強化に向けては、個々人の健康状態に応じた個別対応技術に係る取組の強化が必要と考えられ、特に情報処理関連や医学関連、更には人文・社会科学も含めた多面的な研究者の参画の拡充に向けた具体的な方策の検討が期待される。</p>

<p>共同利用・ 共同研究拠点名</p>	<p>糖鎖生命科学連携ネットワーク型拠点</p>
<p>大学等名 (研究施設名)</p>	<p>名古屋大学、岐阜大学(糖鎖生命コア研究所【中核施設】) 創価大学(糖鎖生命システム融合研究所) 自然科学研究機構(生命創成探究センター【連携施設】)</p>
<p>評価コメント</p>	<p>生命科学研究のボトルネックとなっている「糖鎖」を対象とする研究拠点として、大型の外部資金の獲得や世界水準の国際的な学術誌への質の高い論文発表等の研究の中核性を有し、研究の今後の方向性やネットワークを構成する各研究施設の役割が明確であることから、共同利用・共同研究拠点としての必要性が十分に認められるとともに、その活動に向けての準備・検討が十分に進んでいることは高く評価できる。</p> <p>今後は、糖鎖研究が様々な分野との連携により、一層の進捗が期待できる可能性を有していることを踏まえ、更なる幅広い連携に向けた検討が期待されるとともに、当該分野において卓越した海外機関との国際協定等の締結を通じた国際ネットワークを強化するなどにより世界的な糖鎖研究を先導する拠点となることが期待される。</p>

<p>共同利用・ 共同研究拠点名</p>	<p>プロテオインタラクトーム解析共同研究拠点</p>
<p>大学等名 (研究施設名)</p>	<p>愛媛大学(プロテオサイエンスセンター)</p>
<p>評価コメント</p>	<p>生命科学の幅広い分野において不可欠な蛋白質の相互作用を網羅的に明らかにしようとするインタラクトーム解析に関する中核的拠点として、本研究施設が有する独自の無細胞蛋白質合成技術と蛋白質相互作用を解析できる技術等を共同利用に供することは、我が国の生命科学研究の発展に大きく寄与するものであり、また、社会実装に向けた新規薬剤や新規診断手法の開発等、多数の企業との活発な共同研究を展開していることも評価できる。</p> <p>今後、本研究施設が中核となって先端的な蛋白質研究を進めるに当たっては、複合体も含めた立体構造を正確に把握することが非常に重要であり、構造解析装置や十分なコンピュータ資源等研究動向に応じた研究リソースの整備や、当該装置等へのアクセスを可能とする他研究施設との更なる密接な連携の推進が期待されるとともに、本研究施設が主体となって進める研究の更なる学術的発展や新たな研究領域への展開等に向けた戦略的な拠点運営が期待される。また、当該分野における中核拠点性を更に発揮するため、共同利用・共同研究を通じて本研究施設が主体となった質の高い論文発表を更に増加させることが期待される。</p>

<p>共同利用・ 共同研究拠点名</p>	<p>新興感染症制御研究拠点</p>
<p>大学等名 (研究施設名)</p>	<p>長崎大学(高度感染症研究センター)</p>
<p>評価コメント</p>	<p>我が国初の研究・教育に利用可能な BSL-4 施設を保有する研究施設として社会的ニーズの極めて高い感染症研究において我が国の中核性を有するとともに、人材育成を含めて、今後共同利用・共同研究拠点として、研究者コミュニティへの更なる貢献を目指していることは評価できる。</p> <p>今後は、本研究施設と研究領域が近い熱帯医学研究所との連携を含め感染症研究分野の研究・教育をサポートするための大学全体としての組織的な仕組みを検討するとともに、感染症研究コミュニティのみならず他研究分野とのネットワークによる関連研究分野の発展や新規研究分野の開拓に向けた具体的な方策の検討が期待される。さらに、当該研究分野特有の倫理及び研究の安全性に関するマネジメントを組織的に運用するため、事務組織を含む運営に係る全学的な責任体制を明確化するとともに、BSL-4 施設の運営に対する地域住民の理解増進に向けた継続的な意見交換の実施や長崎県及び長崎市との連携・協力体制の維持・向上に向けては、引き続き、本研究施設及び大学が一体的に取り組むことが期待される。</p>

<p>共同利用・ 共同研究拠点名</p>	<p>軽金属材料共同研究拠点</p>
<p>大学等名 (研究施設名)</p>	<p>熊本大学、富山大学(先進軽金属材料国際研究機構)</p>
<p>評価コメント</p>	<p>熊本大学においてマグネシウム合金、富山大学においてアルミニウム合金に関する研究組織を有し、それぞれ卓越した研究者による多くの研究成果及び共同利用・共同研究の実績を有するとともに、両者の特色を生かし、チタン合金に対する人員を更に確保した上で、軽金属材料に関する共同利用・共同研究拠点の形成を目指していることは高く評価できる。</p> <p>今後は、本拠点の形成によりマルチマテリアル化技術を含めた軽金属の技術革新の促進が期待されること、国際的な競争下で日本の立ち遅れが危惧される当該分野の発展に寄与することが期待されることから、両大学の一層密接な連携の下に、関連コミュニティの拡充や、地理的な課題や既存の役割分担を越えた共同利用・共同研究拠点としての強固な体制整備と運営に向けた、より具体的な方策の検討が期待される。</p>